海外ニュース

文/岸 葉子　Kishi Yoko

ドイツ　飼い犬のために安全な玩具を

●商品テスト財団『テスト』2022年9月号
https://www.test.de/Schadstoffe-in-Hundespielzeug-Manche-Spielzeuge-sind-stark-belastet-5907364-0/

飼い主が投げたボールを追いかけたり、ロープの引っ張り合いをしたりと、犬はおもちゃで遊ぶのが大好きである。しかし、犬には物を噛(か)む性質があるため、素材の安全性が気になる。そこで商品テスト財団は、有害物質が含まれていないかという観点から、犬用玩具のテストを行った。対象は、ボール型、骨型、ロープ型、ディスク型、動物型等の計15商品。暗闇で光る、音が鳴る、餌を入れられるなど、さまざまな機能が付いていた。

その結果、11商品には問題物質が含まれていなかった一方で、4商品から発がん性物質であるニトロソアミン類が相当量検出されたという。素材は3商品がラテックス、1商品が天然ゴムだった。EUには、犬用玩具を対象とする有害物質の規制値は存在しないが、こどもと犬が一緒に遊ぶことを想定して、同財団はEU玩具指令の値を参考に評価した。こどもの玩具に犬用玩具が紛れ込む可能性は、事業者も認識しているようで、今回テストした半数以上の商品に、同指令に基づくCEマークが付いていた。ただし、CEマークは企業責任により自ら表示するもので、客観的な安全性の証明にはならないと同財団は強調する。事実、発がん性物質が検出された3商品にも同マークが表示されていたという。

さらに同財団は、玩具による窒息のリスクについて警告する獣医師の声を紹介している。飼い主が投げた小さなボールをキャッチするとき、口の奥に入り込んだり、玩具を噛み切って破片を誤飲するおそれがあるのだという。そこで、小さ過ぎないボールを選ぶこと、壊れた玩具は使わせないことが重要だとする。

スイス　進化を続ける生理用品だが

●ロマンド消費者連盟ホームページ https://www.frc.ch/culotte-menstruelle-lessayer-cest-ladopter/

ヨーロッパではナプキン、タンポンに続く生理用品として、月経カップが普及しつつあるが*、最近の注目アイテムは、吸水シートと一体化した月経ショーツである。吸水力がある布の層が下着本体に縫い付けられているため、ナプキンやタンポンを使う必要がないのだという。交換の手間が省けるうえ、繰り返し洗って使えることから、廃棄物削減にもつながると宣伝されている。

しかし、比較的新しい商品であるため、性能や使用感に関する情報が少ない。そこで、ロマンド消費者連盟は月経ショーツ10商品を対象にテストを行った。女性ボランティア83人がテスターとして、希望の商品を2～3サイクル着用し、漏れの有無や使用感を判定した。その結果、6割近くのテスターが、ピーク時でも月経ショーツだけで十分だったと答えた(ただし、これらの女性は普段から経血量が少なめ～中程度であることに注意を要する)。また、商品による差が大きく、1商品は漏れがひどいと評価された。「快適さ」では8商品が高評価だったが、湿気や臭いが気になるという声もあった。

さらに同連盟は、環境配慮度と経済性の観点から、従来の生理用品との比較を行った。月経ショーツは1枚約25～60スイスフランとかなり高め。1サイクルに必要な枚数や耐用年数等を考慮すると、1人の女性が生涯で支出する費用額が、他の生理用品と比べて最も高価と推計された。一方、廃棄物の量は月経カップに次いで少ないと推計されたが、データ不足のため、正確な値の算出は困難だったとのことである。

＊　ウェブ版「国民生活」2021年7月号「海外ニュース」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202107_08.pdf

文/安藤 佳子 Ando Yoshiko

イギリス　ロイヤルティ・ペナルティの禁止

●Which?ホームページ
https://press.which.co.uk/whichpressreleases/despite-loyalty-penalty-ban-many-insurance-customers-seeing-price-rises-which-research-finds/
●FCAホームページ
https://www.fca.org.uk/news/press-releases/fca-confirms-measures-protect-customers-loyalty-penalty-home-motor-insurance-markets

ロイヤルティ・ペナルティは、新規顧客に低価格を提供する一方で既存顧客の価格を段階的に引き上げる行為で、イギリスでは保険や通信の業界で多くみられる。2018年、市民相談を行うCitizens Adviceがこの慣行を組織的詐欺であるとして苦情申し立て(スーパーコンプレイント)を行った。これを受けてFCA(金融行為規制機構)は2021年5月、住宅保険と自動車保険の事業者によるロイヤルティ・ペナルティの禁止、自動更新解除の簡易化などを含む消費者救済措置を発表し、2022年1月に発効した。

FCAの市場調査で、保険会社が自動更新しそうな顧客を特定しその保険料を毎年値上げする、別契約や他社を検討するための情報を提供しないなど、不適切な行為で既存顧客の保険料を値上げする一方、格安の保険料で新規顧客を勧誘していることが判明。FCAは、救済措置により消費者は今後10年間で約42億ポンド(約6500億円)節約できると推計する。

Which?は今回のロイヤルティ・ペナルティ禁止で保険料の価格に変動があったか、会員14,000人以上に調査した。2021年5～12月に支払った保険料を2022年の上半期と比較したところ、自動車・住宅保険ともに平均値はわずかに減少したものの、住宅保険の契約者の約半数と自動車保険の契約者の約4割は保険料が高くなったと回答した。一方、割引交渉した場合は自動車・住宅保険ともに約55ポンド、保険会社を切り替えた場合は自動車保険で43ポンド、住宅保険で103ポンドも安くできたという。

Which?は、保険を無為に自動更新すべきではないとして、保険会社との交渉の想定問答例を紹介し、助言している。

アメリカ　自動車や自動車部品の盗難を避けるために

●CRホームページ
https://www.consumerreports.org/money/theft/how-to-keep-your-car-from-getting-stolen-car-theft-a2434454434/
https://www.consumerreports.org/theft/how-to-prevent-catalytic-converter-theft-a6785016673/
●NICBホームページ https://www.nicb.org/news/blog/rise-vehicle-theft

アメリカでは自動車の盗難が増加しているという。非営利組織のNICB(全米保険犯罪局)によると、2021年の自動車盗難件数は2019年より17%増の93万件以上。盗難防止装置のない古い型式の自動車で鍵が車内に放置されている場合が最もねらわれやすいが、電子ツールを使ったハイテク盗難もある。盗難防止のために ●夜間駐車は人通りの多い明るい駐車場に ●必ず施錠し、キーや貴重品を車内に放置しない ●自宅の駐車場にはモーションセンサー付照明を設置 ●ハンドルロックなど目に見える盗難防止用具も有効、などと助言している。

また、自動車部品の触媒コンバーターの盗難も急増。プラチナやパラジウムなどのレアメタルと有毒ガスを反応させて排ガス中の窒素酸化物や一酸化炭素を減らすしくみで、多くの州で安全性・排ガス検査に合格するために必要な部品だ。装着位置が車体の外側下部で外しやすく、特にトラック(潜り込みやすい)やハイブリッド車(2個装備)で盗まれやすい。

取り外しを困難にする鋼板や衝撃アラームなど、盗難対策には費用も要するが、盗難された場合の交換費用よりは安価だ。さらに、出入り口が施錠された明るくて安全な駐車場に駐車することも重要とNICBは助言している。また、一部の州では盗難品の売りさばきを困難にするため、金属スクラップ業者が中古触媒コンバーターを購入する際に車両の証明文書等の提示を求めることを義務づけた法案が可決した。CR(コンシューマーレポーツ)は、多くの州で同様の法案の立法化を促すために、触媒コンバーターの盗難被害にあった際は積極的に警察や保険会社に届け出るよう勧めている。